

# イタリアの人々と私

佐藤元彦

## Italian people and I

SATO, Motohiko

**要旨：**一年間のイタリア留学を通してイタリア人の考え方に対する率直な感想を述べていく。

**キーワード：**イタリア

2001年10月1日からおよそ一年間、在外研究員としてイタリアに留学する機会を持つことができました。室蘭工業大学の蘭岳の中ですでにイタリアでの私の紀行を載せていただいているので、その中には言及できなかったことを中心にこの報告集の中で触れていきたいと考えています。蘭岳の中では、イタリアの経済、流通の至るところでオーガナイズされていないシステムがイタリアの産業の発展を阻害していること述べました。このことは、公的機関、民間を問わず問題になっています。また、マスコミがその問題点を修正すべく啓蒙するどころか、助長する報道を繰り返していることにも触れました。原因について、日本と同じく敗戦国としての負の遺産を背負い込んでいることにあるのではないかと推定しています。日本との共通点と気づいた点として、教育の崩壊があげられます。教育以前の段階として、基本的な家庭における“しつけ”の問題があります。ある調査で、世界でもっとも恐れられている子供の1位にイタリアがランキングされていました。日本は調査の対象にはなっていなかったのですが、レストランの中で走り回り、勝手に厨房に入りこむなど、イタリアの子供たちは非常に恐れられているようです。日本の子供も調査の対象なら、かなりいい勝負になったのではないかと思います。私の経験から、子供に問題があるというより親にかなり問題があるように思えます。たとえ子供たちが、レストランで大暴れして、関係者立ち入り禁止の厨房に入ろうとも全く注意はしない親が多いように思えます。また、もし注意をするようにその親に促しても、“あんたになにが関係がある。そこにいるあんたが悪い”という態度をとります。こういう光景は日本でもよく見かけられるようになったのではないのでしょうか。観光地でも、いつも大暴れして鬻ぎを買っているのは、日本人とイタリア人のようです。教育の崩壊の原因の一つに“しつけ”の問題があると思われませんが、これほどまで家庭教育が崩壊、混乱している要因に戦後の伝統的な価値観を捨て去ったことがあると思われれます。日本の場合は、神道や儒教といった礼節の教え、あるいは仏教な教えなどが、家庭教育における

基盤を為していたといえます。一方、イタリアは厳格なキリスト教国であったのですが、キリスト教的な教えは現在に至っては、すっかり形骸化してしまったように感じられません。精神的な支柱を失った国の末路は退廃です。両国とも加速度をつけて、退廃に向っているように感じます。イタリア、日本に限らず世界各地で拠り所となる価値観がないことによる混乱が噴出しているように見受けられます。世界のリーダーと言われているアメリカですが、“世界のリーダーであり正義である”と本当に感じているのは、アメリカ国民の一部の人だけでしょう。世界の人々が“こんないいかげんな正義もあるものか”と呆れていることに気づいてないのは、アメリカ国民だけです。制度や価値秩序も耐久期間があると思います。“自由、平等、民主主義”も賞味期限をすっかり過ぎてしまったと言えるのではないのでしょうか。世界を退廃から救う新たな価値秩序が緊急に求められているのではないのでしょうか。

#### 参考文献

破産しない国イタリア 著 内田洋子 平凡社新書

#### 執筆者紹介

所属：室蘭工業大学 共通講座 数理科学講座

Email：motohiko@mmm.muroran-it.ac.jp